

昭和戦前期末の百貨店家具図の特質と背景

— 『近代家具装飾資料』 に収録された三越・高島屋・白木屋の家具図の比較研究 —

Features and Backgrounds of Furniture Drawings of Department Stores at the End of Showa Prewar Period: A Comparative Study of Furniture Drawings of Mitsukoshi, Takashimaya and Shirokiya Department Stores Recorded in “Kindai Kagu Soushoku Shiryou”

新井 竜治¹⁾

Ryuji ARAI

概要

国家総動員法が施行された戦時下で開催された三越・高島屋・白木屋の新作家具展示会の家具図は、実用家具の設計製作技術の情報共有の名目の下、洪洋社発行の『近代家具装飾資料』誌上で公開されたものであった。昭和戦前期の木材工芸界（家具産業界）を牽引した各百貨店の家具装飾部の家具図には、次のような標準化された共通点が見られた。①正投影図法の第三角法による三面図（正面図・側面図・平面図）の全部、または二面（正面図・平面図、または正面図・側面図）で描かれている。②寸法数値単位が尺寸である。③着色はないが、木理（空目）、裂地模様などの意匠表記がある。④構造図、機能図、部品図という構造機能表記がある。

キーワード：三越，高島屋，白木屋，実用家具，家具図，製図法

Abstract

At the war time when National General Mobilization Law was in force, drawings of newly exhibited furniture at Mitsukoshi, Takashimaya and Shirokiya department stores, leading figures at the time, were published in “Kindai Kagu Soushoku Shiryou” issued by Kouyousha in order to share information of designs and manufacturing techniques of utility furniture.

There were some common rules among the furniture drawings as follows;

- 1) Third angle system of orthographic projection was mainly used. Although trihedral figure (three views), which normally includes a front view, a side view and a plan, was in common, two side view system was also used.
- 2) Size was described with Shaku-Sun unit, which was an old Japanese unit of length.
- 3) There were some detailed expressions of designs, such as grain of wood, texture of fabrics, and so on.
- 4) There were some detailed expressions of structure and functions, such as structure drawings, function drawings, and part drawings.

Keywords: Mitsukoshi, Takashimaya, Shirokiya, Utility Furniture, Furniture Drawing, Drawing Method

¹⁾ 芝浦工業大学 デザイン工学部・共栄大学 国際経営学部（非常勤）

1. はじめに

1.1 研究目的

本研究の主な目的は、昭和戦前期¹⁾の木材工芸界(家具産業界)を牽引した各百貨店の家具装飾部が、昭和戦前期末に洪洋社編集発行の『近代家具装飾資料』誌上で公開した家具図の特質を明らかにすることである。本稿では、各百貨店の家具図に見られる特徴を個別に明らかにした上で、各百貨店の家具図に見られる共通点と相違点を明らかにして、昭和戦前期家具産業界の牽引役であった各百貨店家具装飾部の家具図の標準を明らかにする。また、これらの家具図は昭和戦前期末に各百貨店の家具装飾部が主催した新作家具展示会の出品作品の家具図であった。そこで本研究では、本来公開されることのないはずの最新作家具の家具図が、昭和戦前期末に誌上公開されたことの背景を明らかにすることも目的とする²⁾。

なお、昭和戦前期末の各百貨店家具装飾部の家具図を比較検討した既往研究は見当たらない³⁾。

1.2 研究方法

洪洋社が1936年から1944年まで発行した『近代家具装飾資料』全47集の中に、当時の百貨店等の新作家具展示会の模様を収録したものが39集ある。さらにその中に、1940年から1942年にかけて、三越、高島屋、白木屋において開催された新作家具展示会の出品作品の家具図を収録したものが6集分ある⁴⁾。三越では「実用洋家具展」(1941年初夏開催)、「家具及び工芸品総合展観：三創会・日本民芸協会同人作品展」(1942年11月開催)の2回分、高島屋では、「[第9回]新時代洋家具展覧会」(1941年3月開催)、「第10回新作洋家具展覧会」(1942年11月開催)の2回分、白木屋では「和洋家具陳列展」(開催年月不詳：1940年頃)の1回分である。

本研究ではまず、三越、高島屋、白木屋の家具装飾部による、これらの家具図(図1～5)をすべて抽出する。そして、これら三社の家具図の特徴を新作家具展示会ごとに一覧表(表1～5)に整理して、その特質を把握する。紙面の都合で、一品一葉(一品一枚)で描かれていない場合は、一品毎に分析する。その上で、これら三社の家具図の比較対照を一覧表(表6)に整理する。そして、各社に共通する特徴を取り上げて、昭和戦前期末における百貨店家具装飾部の家具図の標準仕様を示す。また各社間で異なる相違点も示す。

次に、これらの家具図が誌上で公開されたことの背景を『近代家具装飾資料』各集の巻頭解説文、及び当時の法令などから明らかにする。

2. 三越・高島屋・白木屋の家具図の特質

2.1 三越家具部の家具図

2.1.1 三越「実用洋家具展」(1941年初夏開催)

1941年初夏開催の三越「実用洋家具展」の家具図は、ほとんどすべてが正投影図法の第一角法で描かれているが、例外的に、第6頁の書斎兼応接室の片袖机だけが第三角法で描かれている。三面図(正面図・[左/右]側面図・平面図/下面図)が全部揃うものが4点、二面だけ(正面図・平面図/下面図)のものが2点、一面だけ(正面図のみ)のものが1点ある。寸法線は中央部分で切られず、寸法数値が寸法線に重ねて記載されている。寸法数値の単位は尺寸であり、端末記号は矢印である。回転椅子脚部には木理の意匠表記がある。また、座の回転描写・各種断面図・積層合板・簀子連結用紐・甲板反り止め材などの構造機能表記がある。また、設計者が明記されている(図1・表1)。

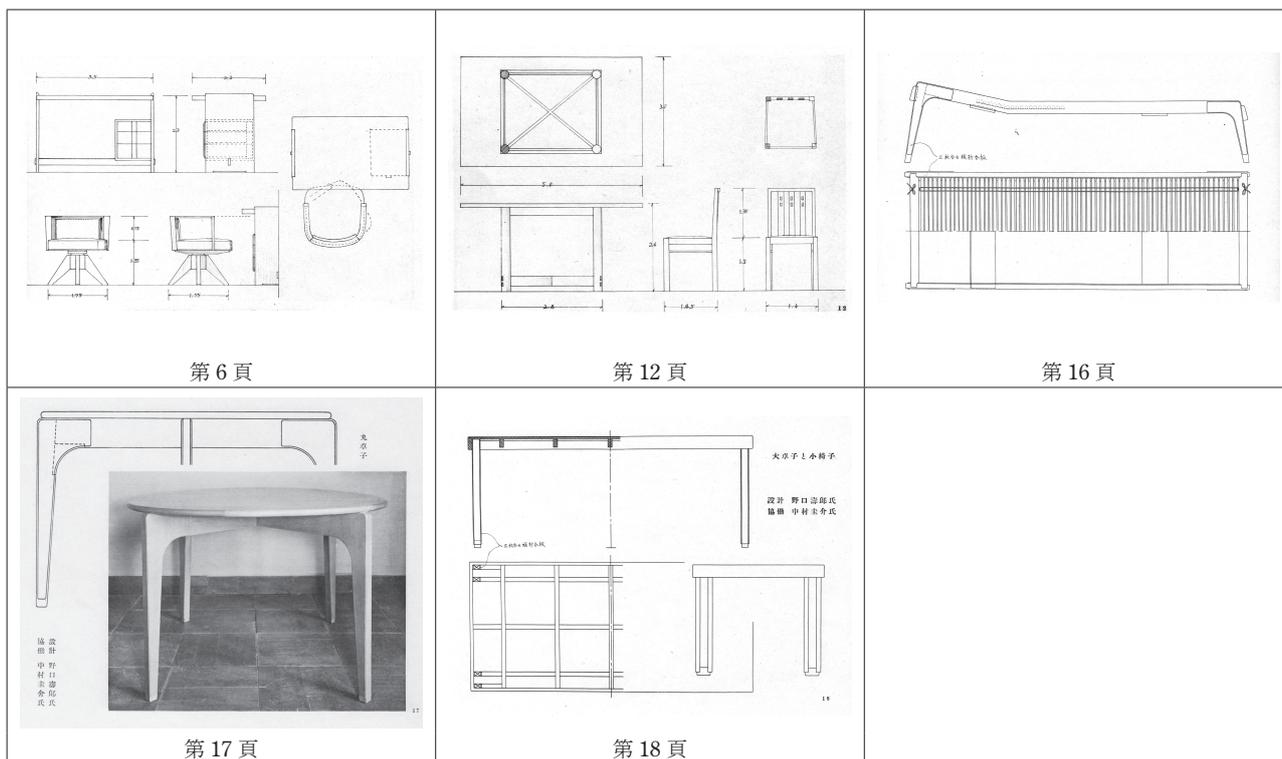


図1 三越「実用洋家具展」(1941年初夏開催)『近代家具装飾資料』第40集の家具図

表1 三越「実用洋家具展」(1941年初夏開催)『近代家具装飾資料』第40集の家具図

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
6上	書斎兼応接室・片袖机	三角法	正面図・右側面図・平面図(※1)	尺寸(☆1)			平山次男
6下	書斎兼応接室・肘掛回転椅子	一角法	正面図・左側面図・平面図(※1)	尺寸(☆1)	脚部木理	座回転図	平山次男
12左	食堂・卓子	一角法	正面図・下面図	尺寸(☆1)		脚部断面図	定方希一
12右	食堂・椅子	一角法	正面図・右側面図・下面図	尺寸(☆1)		脚部断面図, 背部断面図	定方希一
16	寝椅子	一角法	正面図・平面図			桜材三層合板, 簀子連結用紐	野口壽郎 中村圭介
17	丸卓子	-	正面図のみ				野口壽郎 中村圭介
18	大卓子	一角法	正面図・左側面図・平面図			桜材三層合板, 甲板断面図, 甲板下反り止め材配置図	野口壽郎 中村圭介

【注】表中の「家具種類」は『近代家具装飾資料』の表記を基本として、表記なき場合は本稿において命名した。

【凡例】☆1: 寸法線は中央で切らずに寸法数値を寸法線に重ねて記載する。端末記号は矢印。

※1: 平面図が正面図・側面図の右側に配置されているもの(紙面の都合と思われる)。

2.1.2 三越「家具及び工芸品総合展観：三創会・日本民芸協会同人作品展」(1942年11月開催)

1942年11月開催の三越「家具及び工芸品総合展観：三創会・日本民芸協会同人作品展」の家具図は、すべて正投影図法の第三角法で描かれている。ただし『近代家具装飾資料』第45・46合併集の紙面構成の都合により、平面図が正面図・側面図の左側または右側に配置されて、三面図が横一直線に並ぶという、配置方法の変形が見られる。また同様に、紙面構成の都合上、平面図が正面図の下側に配置されていたり、右側面図が下方に配置されていたりするものも見られる。三面図(正面図・[左/右]側面図・平面図/下面図)が全部揃うものが26点⁵⁾と多く、二面だけ(正面図・平面図, または, 正面図・[左/右]側面図)のもの

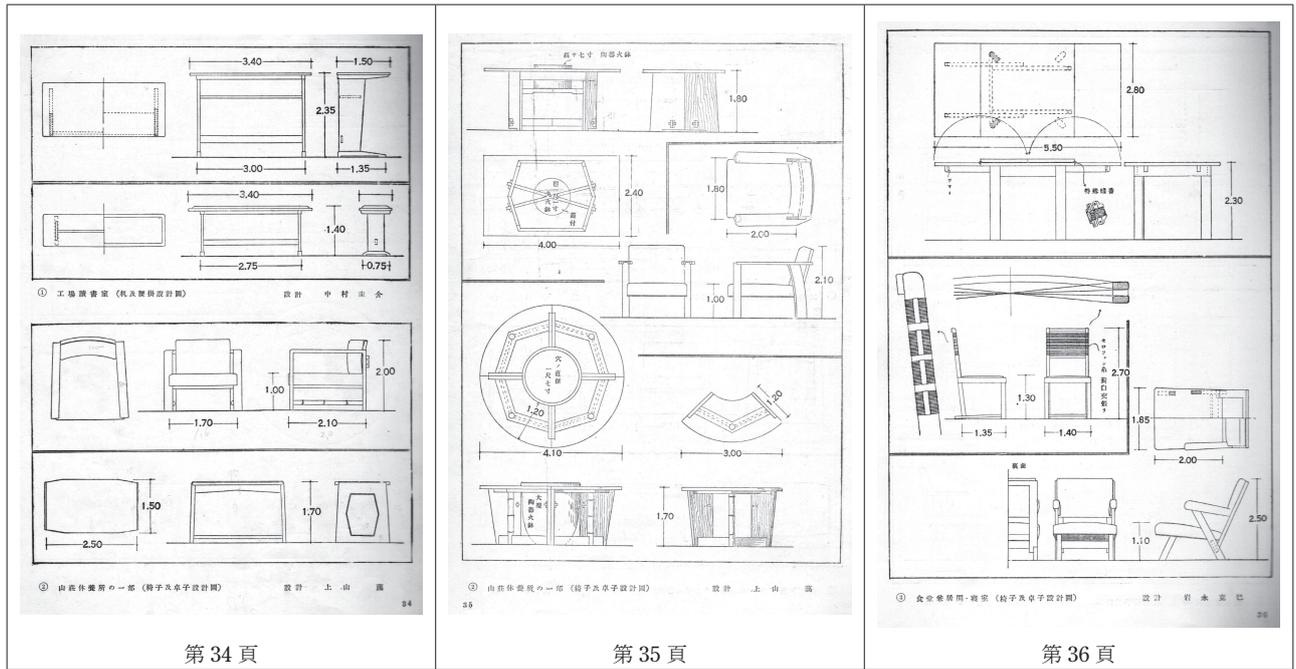


図 2.1 三越「家具及び工芸品総合展観」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第45・46集の家具図(1)

表 2.1 三越「家具及び工芸品総合展観」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第45・46集の家具図(1)

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
34上①	工場読書室・机	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆2)			中村圭介
34上②	工場読書室・腰掛	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆2)		脚部断面図	中村圭介
34下①	山荘休養所の一部・[安楽]椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆2)			上山 藹
34下②	山荘休養所の一部・卓子	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆2)			上山 藹
35上	山荘休養所の一部・卓子 [陶器火鉢入り]	三角法	正面図・右側面図・下面図	寸法(☆2)	木理	径一尺一寸丸火鉢, 高サ七寸陶器火鉢, 蓋付	上山 藹
35中	山荘休養所の一部・[安楽]椅子(★)	三角法	正面図・左側面図・平面図	寸法(☆2)			上山 藹
35下左	山荘休養所の一部・卓子 [大型陶器火鉢入り]	三角法	正面図・平面図	寸法(☆2)	木理	穴ノ直径一尺七寸, 大型陶器火鉢	上山 藹
35下右	同上・卓子(四分之一)	三角法	正面図・平面図	寸法(☆2)	木理		上山 藹
36上	食堂兼居間・寝室・卓子	三角法	正面図・右側面図・平面図	寸法(☆2)		特殊蝶番, 甲板両開閉図, 甲板下ツマミ, 脚部断面図	岩永克己
36中	食堂兼居間・寝室・椅子	三角法	正面図・左側面図・背部セロファン糸拡大詳細図(平面図・左側面図)	寸法(☆2)	背凭れ糸	セロファン糸黄白交張り	岩永克己
36下	食堂兼居間・寝室・[肘掛]椅子(★)	三角法	正面図・左側面図・平面図・背面図	寸法(☆2)	座裏	脚部断面図	岩永克己

【注】【凡例】は表 2.2 を参照のこと。

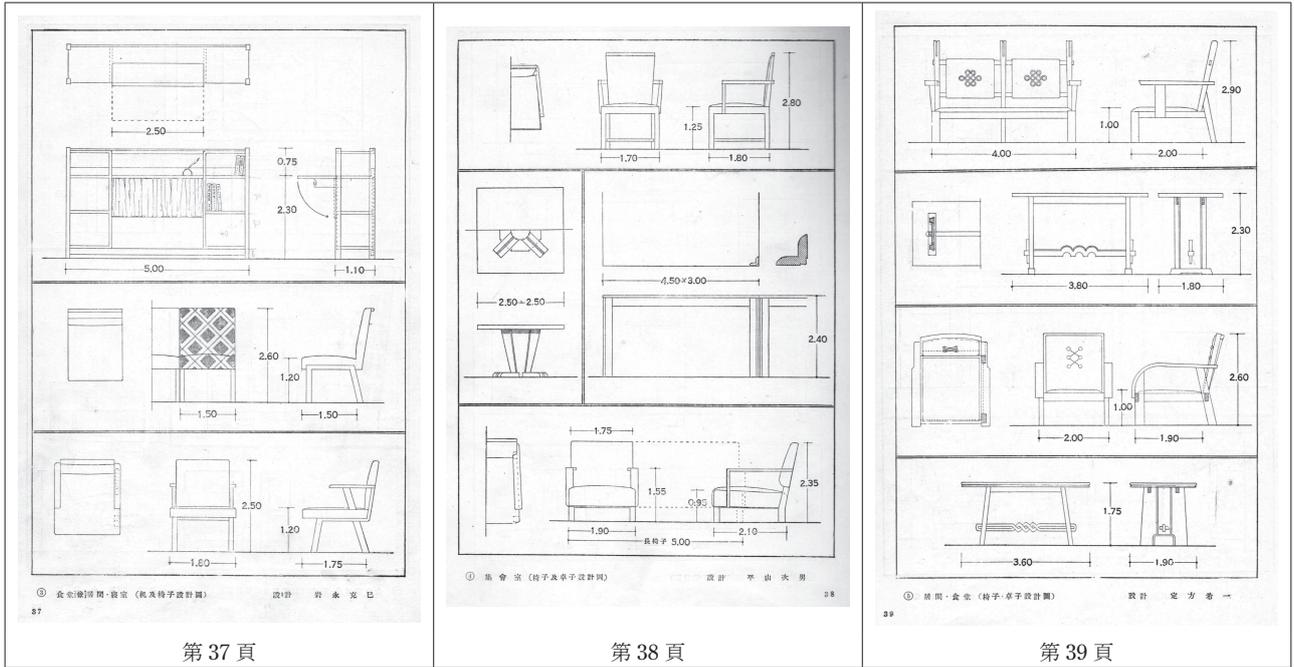


図 2.2 三越「家具及び工芸品総合展観」（1942 年 11 月開催）『近代家具装飾資料』第 45・46 集の家具図（2）

表 2.2 三越「家具及び工芸品総合展観」（1942 年 11 月開催）『近代家具装飾資料』第 45・46 集の家具図（2）

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
37 上	食堂兼居間・寝室・書棚 兼ライティングビュー ロー	三角法	正面図・右側面図・平面図	尺寸(☆2)	木理, 書籍, ペン・ ペン立て	甲板開閉図	岩永克己
37 中	食堂兼居間・寝室・椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	尺寸(☆2)	裂地模様		岩永克己
37 下	食堂兼居間・寝室・[肘 掛] 椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	尺寸(☆2)			岩永克己
38 上	集会室・[肘掛] 椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	尺寸(☆2)			平山次男
38 中左	集会室・卓子 [小]	三角法	正面図・平面図	尺寸(☆2)		脚部断面図	平山次男
38 中右	集会室・卓子 [大]	三角法	正面図・右側面図・平面図	尺寸(☆2)		脚部断面図 (拡大図)	平山次男
38 下	集会室・[安楽] 椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)・ 長椅子の場合の正面図 (破線)	尺寸(☆2)			平山次男
39 上①	居間及び食堂・[二人掛 肘掛] 椅子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆2)	裂地模様		定方希一
39 上②	居間及び食堂・卓子 [大]	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	尺寸(☆2)		脚部断面図, 貫断面図	定方希一
39 下①	居間及び食堂・[安楽] 椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	尺寸(☆2)	裂地模様	座枒部断面図, 脚部断面図	定方希一
39 下②	居間及び食堂・卓子 [小]	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆2)		貫断面図	定方希一

【注】表中の「家具種類」は『近代家具装飾資料』の表記を基本として、表記なき場合は本稿において命名した。

【凡例】☆2：大部分が寸法線を中央で切り寸法数値を記載する。寸法線を切らないものが若干ある。端末記号は黒丸。一部矢印。

★：椅子の左側面（椅子に向かって右側面）が正面図として描かれているもの。

※1：平面図が正面図・側面図の右側に配置されているもの（紙面の都合と思われる）。

※2：平面図が正面図・側面図の左側に配置されているもの（紙面の都合と思われる）。

※3：平面図が正面図の下側に配置されているもの（紙面の都合と思われる）。

※4：右側面図が下方に配置されているもの（紙面の都合と思われる）。

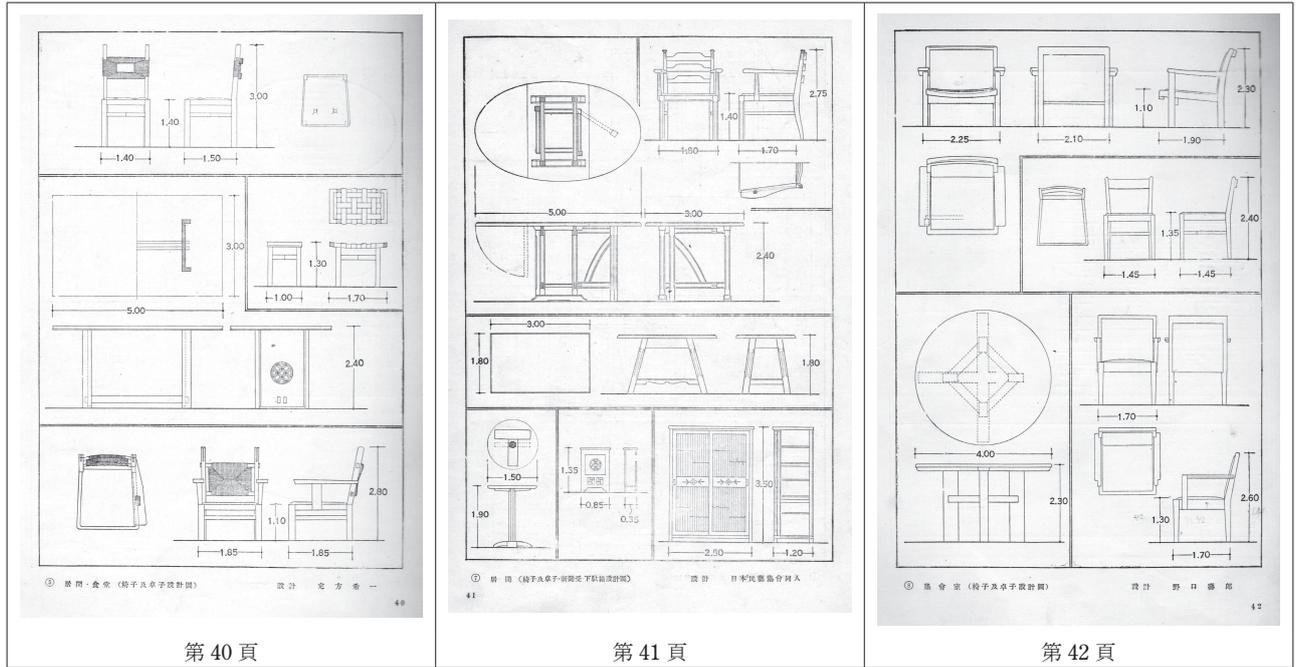


図 2.3 三越「家具及び工芸品総合展観」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第45・46集の家具図 (3)

表 2.3 三越「家具及び工芸品総合展観」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第45・46集の家具図 (3)

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
40 上	居間及び食堂・椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※1)	寸法(☆2)	背縄編み, 座ボタン留め		定方希一
40 中左	居間及び食堂・卓子	三角法	正面図・右側面図・平面図	寸法(☆2)	脚部透彫り	脚部断面図	定方希一
40 中右	居間及び食堂・椅子 [スツール] (★)	三角法	正面図・左側面図・平面図	寸法(☆2)	ウエビング テープ編み	座枳断面図	定方希一
40 下	居間及び食堂・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	寸法(☆2)	背縄編み	肘部断面図	定方希一
41 上左	居間・卓子 [バタフライ式]	三角法	正面図・右側面図・平面図	寸法(☆2)		脚部断面図, 脚部ゲート式開閉図, 甲板昇降図	日本民芸協会同人
41 上右	居間・[肘掛]椅子 (★)	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※3)	寸法(☆2)		肘部断面図	日本民芸協会同人
41 中	居間・椅子 [スツール]	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	寸法(☆2)			日本民芸協会同人
41 下左	居間・[丸]卓子	三角法	正面図・平面図	寸法(☆2)		脚部断面図	日本民芸協会同人
41 下中	居間・新聞受	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆2)	透彫り	本体断面図	日本民芸協会同人
41 下右	居間・下駄箱	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆2)	引違扉鏡板 竹材組合せ 模様	本体断面図	日本民芸協会同人
42 上	集会室・[安楽]椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※3)・背面図	寸法(☆2)			野口壽郎
42 中	集会室・椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※2)	寸法(☆2)			野口壽郎
42 下左	集会室・[円]卓子	三角法	正面図・平面図	寸法(☆2)			野口壽郎
42 下右	集会室・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図 (※4)・平面図 (※3)・背面図	寸法(☆2)			野口壽郎

【注】【凡例】は表 2.2 を参照のこと。

のが10点見られる。大部分の寸法線が中央部分で切られて、その空白箇所に寸法数値が記載されているが、寸法線を切らないものも例外的に若干見られる。寸法数値の単位は尺寸であり、端末記号はほぼ全部が黒丸であるが、一部に矢印のものがある。木理（杳目）・ディスプレイ用品（食器・書籍）・裂地模様・縄編み・ボタン・透かし彫りなどの意匠表記がある。また、各種断面図・甲板開閉図・ゲート式脚の開閉図・火鉢・特殊蝶番などの構造機能表記がある。また、設計者が明記されている。そして、設計者によって詳細部分の描写が若干異なる（図2.1～図2.3・表2.1～表2.3）。

2.2 高島屋家具装飾部の家具図

2.2.1 高島屋「[第9回]新時代洋家具展覧会」(1941年3月開催)

1941年3月開催の高島屋「[第9回]新時代洋家具展覧会」の家具図は、ほとんどすべて正投影図法の第三角法で描かれているが、例外的に、第18頁の寝室用の化粧台だけが第一角法で描かれている。この家具図は、当時すでに故人であった船戸銀男による化粧台の設計図であり、正投影図法第一角法による三面図（正面図・左側面図・平面図）と透視図法による透視図を1枚の紙面に描いたものである。三面図（正面図・[左/右]側面図・平面図）が揃っているものが5点、二面だけ（正面図・平面図、または、正面図・右側面図）のものが2点、一面だけ（平面図のみ）のものが1点見られる。なお、第三角法にもかかわらず、平面図が正面図の下側に配置されているものが1点だけある。また透視図も4点添えられている。大部分の寸法線が中央部分で切られて、その空白箇所に寸法数値が記載されているが、寸法線を切らない例外も見られる。寸法数値の単位は尺寸であり、端末記号は無い。木理（杳目）・ディスプレイ用品（食器）・塗装色・ガラス記号・ボタンなどの意匠表記がある。また、各種断面図・ガラス棚板・ガラス引違い扉・鏡回転図・タオル掛けなどの構造機能表記がある。また設計者は、船戸銀男以外は不明である（図3・表3）。

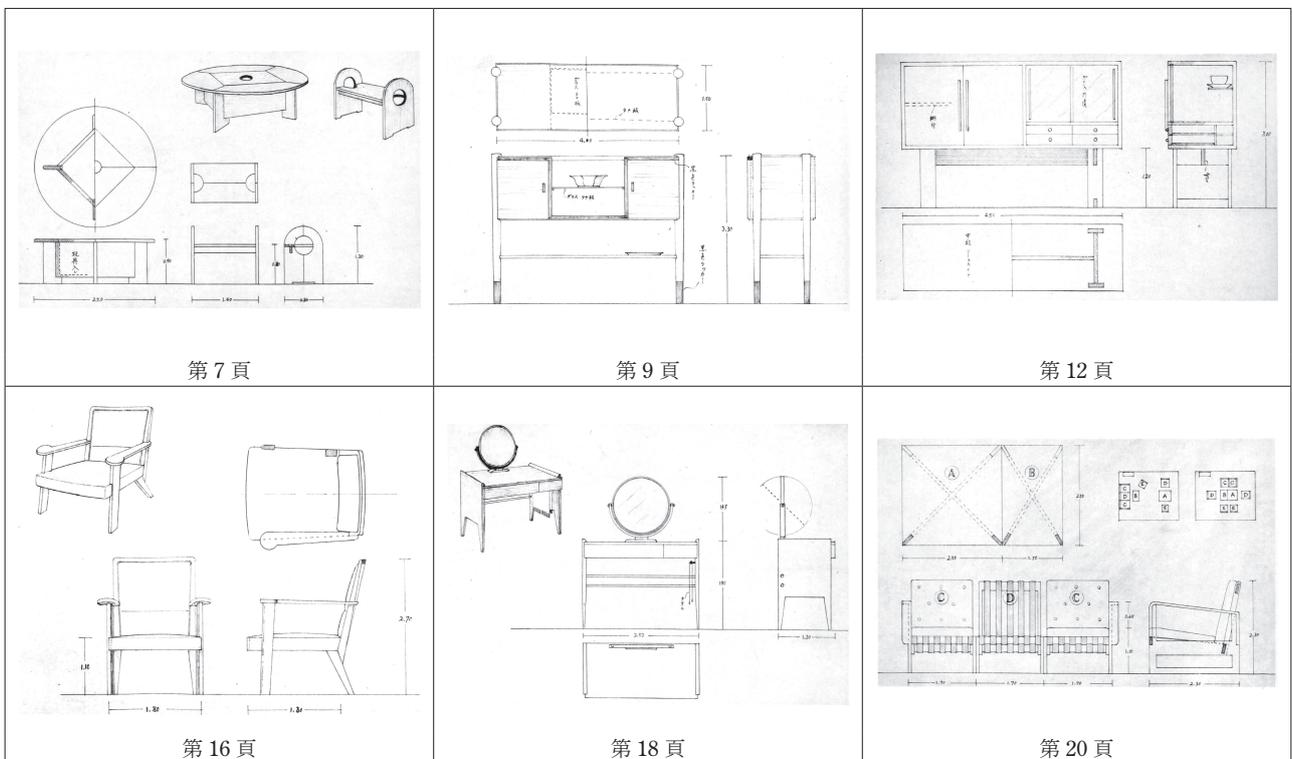


図3 高島屋「[第9回]新時代洋家具展覧会」(1941年3月開催)『近代家具装飾資料』第39集の家具図

表3 高島屋「[第9回] 新時代洋家具展覧会」(1941年3月開催)『近代家具装飾資料』第39集の家具図

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
7左	子供室用・卓子	三角法	正面図・平面図 透視図	尺寸(☆3)	木理 (透視図)	中央部玩具入れ図, 甲板部断面図, 収納部断面図	
7右	子供室用・腰掛	三角法	正面図・右側面図・平面図 透視図	尺寸(☆3)	木理 (透視図)	座部断面図, 貫配置図	
9	食堂用・食器棚	三角法	正面図・右側面図・平面図	尺寸(☆3)	木理, 食器 黒色ラッカー 仕上	ガラス棚板	
12	食堂用・食器棚	三角法	正面図・右側面図・平面図 (※3)	尺寸(☆3)	ガラス記号, 食器	収納部断面図, 脚部貫 断面図, ガラス引違戸, 甲板アトライト	
16	書齋用・安楽椅子 (★)	三角法	正面図・左側面図・平面図 透視図	尺寸(☆3)		脚部断面図	
18	寝室用・化粧台	一角法	正面図・左側面図・平面図 透視図	尺寸(☆3)	木理 (透視図)・鏡	鏡回転図, タオル掛	船戸銀男
20上	婦人居間用・卓子(大 小)	-	平面図のみ(卓子の高さ不明)	尺寸(☆3)		脚部断面図	
20下	婦人居間用・長椅子 [3分割]	三角法	正面図・右側面図 レイアウト図	尺寸(☆3)	背ボタン留め	置き座式図, ウエビン グテープ張り, 背座断 面図	

【注】表中の「家具種類」は『近代家具装飾資料』の表記を基本として、表記なき場合は本稿において命名した。

【凡例】☆3：大部分が寸法線を中央で切って寸法数値を記載する。寸法線を切らない例外もある。端末記号無し。

★：椅子の左側面（椅子に向かって右側面）が正面図として描かれているもの。

※3：平面図が正面図の下側に配置されているもの。

2.2.2 高島屋「第10回新作洋家具展覧会」(1942年11月開催)

1942年11月開催の高島屋「第10回新作洋家具展覧会」の家具図は、ほとんどすべて正投影図法の第三角法で描かれているが、例外的に、第6頁の応接室の長椅子[2人掛]だけが第一角法で描かれている。同じ頁の上段において第三角法で描かれた安楽椅子の右側面図と、下段において第一角法で描かれた長椅子の左側面図とを上下に配置することによって、安楽椅子・長椅子の左右の側面を読者が容易に対比して見られるように配慮したためではないかと考えられる。そして、三越「家具及び工芸品総合展観」の場合と同じく、『近代家具装飾資料』第47集の紙面構成の都合上、平面図が正面図・側面図の左側に配置されて、三面図が横一直線に並ぶという配置方法の変形が見られる。また第19頁の寝室の寝台については、紙面構成の都合上、正面図と右側面図とが重ねて描かれている。三面図（正面図・[左/右]側面図・平面図/下面図）が全部揃うものが9点と少なく、二面だけ（正面図・右[左]側面図）のものが18点と多く見られる。透視図も1点ある。寸法線は中央部分で切られず、寸法数値が寸法線に重ねて記載されている。寸法数値の単位は尺寸であり、端末記号は黒丸である。裂地模様・ガラス記号・縄・ボタンなどの意匠表記がある。また、各種断面図・厚ガラス板嵌込・ガラス棚・鏡などの構造機能表記がある。また、設計者は不明である（図4・表4）。

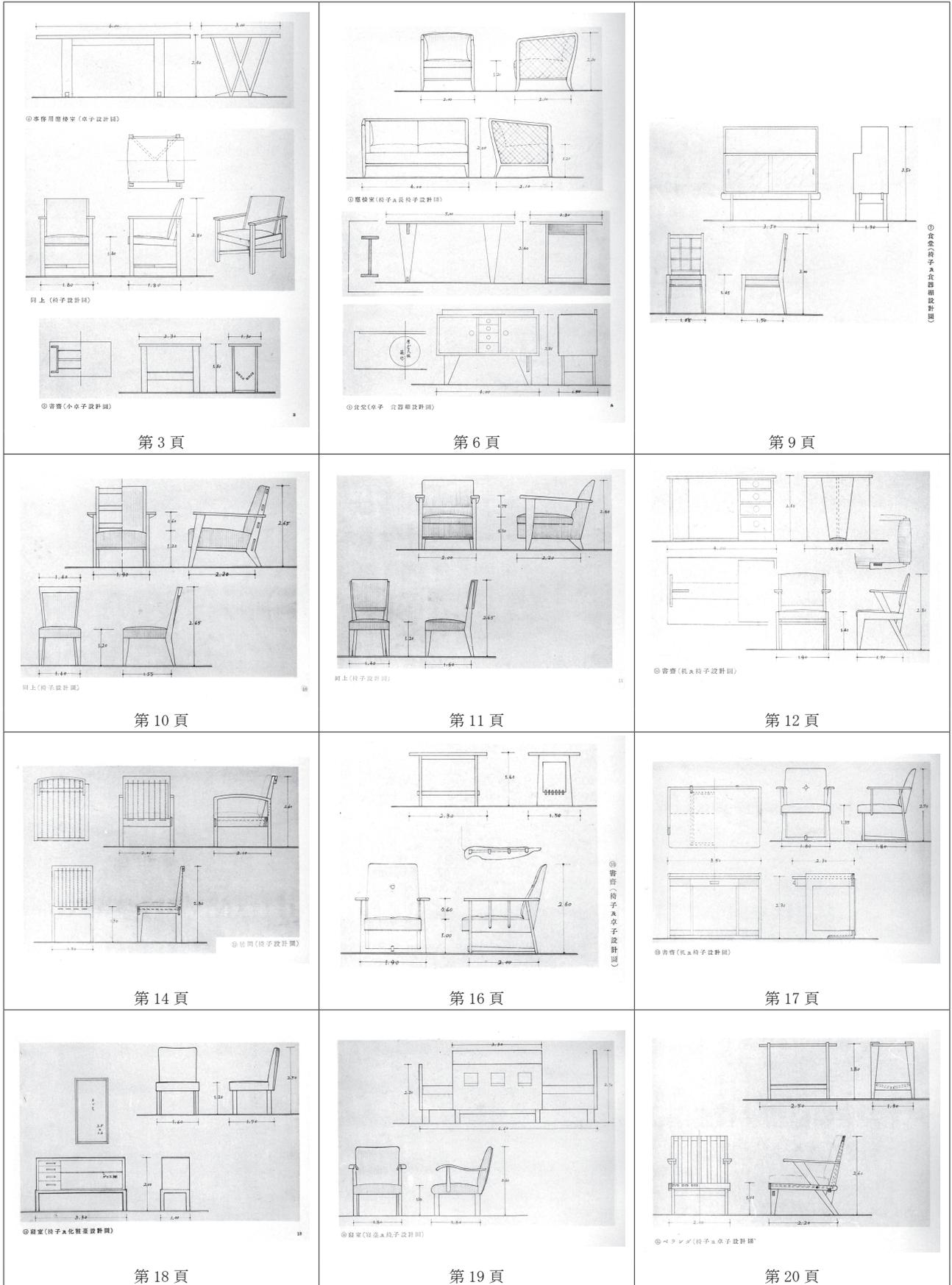


図4 高島屋「第10回新作洋家具展覧会」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第47集の家具図

表4 高島屋「第10回新作洋家具展覧会」(1942年11月開催)『近代家具装飾資料』第47集の家具図

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
3上	事務用応接室・卓子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)			
3中	事務用応接室・椅子(★)	三角法	正面図・左側面図・平面図 透視図	寸法(☆4)	裂地模様	脚部断面図	
3下	書齋・小卓子	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆4)		脚部棚部断面図	
6上①	応接室・[安楽]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
6上②	応接室・長椅子[2人掛]	一角法	正面図・左側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
6中	食堂・卓子	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆4)		脚部貫断面図	
6下	食堂・食器棚	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆4)		厚ガラス板嵌込図, 両側脚部幕板断面 図	
9上	食堂・食器棚	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	引違いガ ラス扉		
9下	食堂・椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
10上	小応接室・[安楽]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様	背凭れ梯子状貫断 断面図	
10下	小応接室・椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
11上	客室・[安楽]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
11下	客室・椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
12上	書齋・[片袖]机	三角法	正面図・右側面図・下面図	寸法(☆4)		脚部断面図	
12下	書齋・[肘掛]椅子(★)	三角法	正面図・左側面図・平面図	寸法(☆4)	裂地模様	肘部断面図	
14上	居間・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図・平面図(※2)	寸法(☆4)	縄	座枘断面図	
14下	居間・椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	縄	座枘断面図	
16上	書齋・卓子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)			
16下	書齋・[肘掛]椅子(★)	三角法	正面図・左側面図・平面図	寸法(☆4)	裂地模様, 背座ボタ ン留め	肘部断面図	
17上	書齋・机	三角法	正面図・右側面図・平面図	寸法(☆4)		肘部断面図	
17下	書齋・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	背ボタン 留め		
18上	寝室・椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)			
18下	寝室・化粧台・鏡	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)		ガラス棚・鏡	
19上	寝室・寝台	三角法	正面図・右側面図(※5)	寸法(☆4)			
19下	寝室・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)	裂地模様		
20上	ベランダ・卓子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)			
20下	ベランダ・[肘掛]椅子	三角法	正面図・右側面図	寸法(☆4)		笠木・座枘・幕板 断面図, 座簀子断 断面図	

【注】表中の「家具種類」は『近代家具装飾資料』の表記を基本として、表記なき場合は本稿において命名した。

【凡例】☆4：寸法線は中央で切らずに寸法数値を寸法線に重ねて記載する。端末記号は黒丸。

★：椅子の左側面（椅子に向かって右側面）が正面図として描かれているもの。

※2：平面図が正面図・側面図の左側に配置されているもの（紙面の都合と思われる）。

※5：正面図と右側面図を重ねて描いているもの（紙面の都合と思われる）。

2.3 白木屋家具装飾部の家具図

2.3.1 白木屋「和洋家具陳列展」(開催年月不詳：1940年頃)

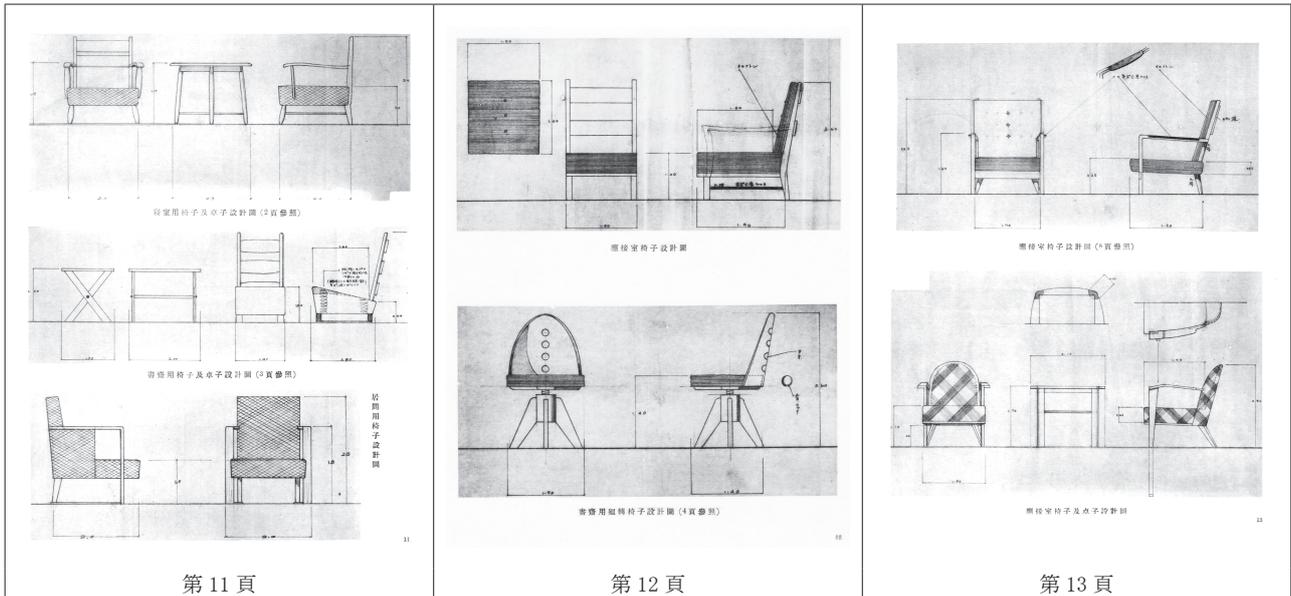


図5 白木屋「和洋家具陳列展」(開催年月不詳：1940年頃)『近代家具装飾資料』第38集の家具図

表5 白木屋「和洋家具陳列展」(開催年月不詳：1940年頃)『近代家具装飾資料』第38集の家具図

頁	家具種類	図法	図の種類	寸法表記	意匠表記	構造機能表記	設計者
11上①	寝室用 [安楽] 椅子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆5)	裂地模様		
11上②	寝室用卓子	-	正面図のみ	尺寸(☆5)	木理		
11中①	書斎用椅子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆5)		座内臓コイルスプリング	
11中②	書斎用卓子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆5)			
11下	居間用 [安楽] 椅子	三角法	正面図・左側面図	尺寸(☆5)	裂地模様		
12上	応接室 [安楽] 椅子	三角法	正面図・右側面図・背クッション正面図	尺寸(☆5)	ラッカー塗装色, 背ボタン留め		
12下	書斎用回転椅子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆5)	座裂地模様	背丸穴	
13上	応接室 [安楽] 椅子	三角法	正面図・右側面図	尺寸(☆5)	裂地模様, 背ボタン留め	肘掛部分詳細図	
13下①	応接室椅子 (★)	三角法	正面図・左側面図・平面図	尺寸(☆5)	裂地模様		
13下②	応接室卓子	三角法	正面図・平面図	尺寸(☆5)		脚部断面図	

【注】表中の「家具種類」は『近代家具装飾資料』の表記を基本として、表記なき場合は本稿において命名した。

【凡例】☆5：寸法線は中央で切らずに寸法数値を寸法線に重ねて記載する。端末記号は斜線。

★：椅子の左側面（椅子に向かって右側面）が正面図として描かれているもの。

1940年頃開催の白木屋「和洋家具陳列展」の家具図は、すべて正投影図法の第三角法で描かれている。三面図（正面図・[左]側面図・平面図）が全部揃うものが1点、二面だけ（正面図・右[左]側面図、または、正面図・平面図）のものが8点、一面だけ（正面図のみ）のものが1点見られる。寸法線は中央部分で切られず、寸法数値が寸法線に重ねて記載されている。寸法数値の単位は尺寸であり、端末記号は斜線である。裂地模様・木理(杳目)・塗装色・ボタンなどの意匠表記がある。また、各種断面図・座内臓コイルスプリング・肘掛部分詳細図・背丸穴図などの構造機能表記がある。また、設計者は不明である(図5・表5)。

3. 三越・高島屋・白木屋の家具図の共通点と相違点

3.1 三社の家具図の特徴

前章で検討した，昭和戦前期末に三越・高島屋・白木屋の新作家具展示会に出品された家具作品の家具図の特徴，すなわち，正投影図法の図法（第三角法・第一角法），正投影図法の図の種類，透視図の有無，寸法数値単位，寸法線端末記号，意匠表記，構造機能表記を一覧表（表6）に整理して示す。

表6 『近代家具装飾資料』収録の昭和戦前期の三越・高島屋・白木屋の新作家具展の出品作品の家具図の比較対照

百貨店名	三越	三越	高島屋	高島屋	白木屋
展示会名	「実用洋家具展」	「家具及び工芸品総合展観：三創会・日本民芸協会同人作品展」	「[第9回]新時代洋家具展覧会」	「第10回新作洋家具展覧会」	「和洋家具陳列展」
開催年月	1941年初夏	1942年11月	1941年3月	1942年11月	1940年頃
『近代家具装飾資料』	第40集	第45・46合併集	第39集	第47集	第38集
本稿内の図表番号	図1・表1	図2.1-2.3・表2.1-2.3	図3・表3	図4・表4	図5・表5
正投影図法の図法	第一角法(第三角法)	第三角法	第三角法(第一角法)	第三角法(第一角法)	第三角法
正投影図法の図の種類	三面図4点 二面2点 一面1点	三面図26点 二面10点	三面図5点 二面2点 一面1点	三面図9点 二面18点	三面図1点 二面8点 一面1点
透視図法の図	-	-	透視図4点	透視図1点	-
寸法数値単位	尺寸	尺寸	尺寸	尺寸	尺寸
寸法線端末記号	矢印	黒丸	無し	黒丸	斜線
意匠表記	木理	木理・食器・書籍・裂地模様・縄編み・ボタン・透かし彫り	木理・食器・塗装色・ガラス記号・ボタン	裂地模様・ガラス記号・縄・ボタン	裂地模様・木理・塗装色・ボタン
構造機能表記	座回転図・断面図・積層合板・簀子連結用紐・甲板反止め材	断面図・甲板開閉方法図・ゲート式脚開閉方法図・火鉢・特殊蝶番	断面図・ガラス棚板・ガラス引違い扉・鏡回転図・タオル掛け	断面図・厚ガラス板嵌込図・ガラス棚・鏡	断面図・座内臓コイルスプリング・肘掛部分詳細図・背丸穴図

【凡例】三面図：正面図・[左/右]側面図・平面図/下面図

3.2 三社の家具図の共通点

家具図は，近現代日本家具産業界の共通の意思疎通手段である。表6によれば，1940年から1942年までの三越・高島屋・白木屋の三社の家具装飾部によって描かれた家具図には，以下に示す共通する特徴が見られる。つまり，昭和戦前期末の各百貨店の家具装飾部による家具図においては，以下の点が標準化されていたことが判る。

- (1) 主として，正投影図法の第三角法による三面図（正面図・側面図・平面図）の全部，または二面（正面図・平面図，または，正面図・側面図）で描かれている。
- (2) 寸法数値単位が尺寸である。
- (3) 着色はないが，線画による木理（空目），椅子張り裂地の模様，ガラス記号，塗装色，ボタンなどの意匠表記がある。
- (4) 構造図・機能図・部品図という構造機能表記がある。詳細は以下のとおりである。
 - ①構造図：各種断面図・積層合板・甲板反止め材・座内臓コイルスプリング・簀子連結用紐・肘掛部分詳細図・背丸穴図など。
 - ②機能図：座回転図・甲板開閉図・ゲート式脚開閉図・鏡回転図など。
 - ③部品図：火鉢・特殊蝶番・タオル掛け・ガラス棚板・ガラス引違い扉・厚ガラス板嵌込図・鏡など。

それから、肘掛椅子を第三角法で描く場合、一般的に左右の両肘の間に背と座が見える面を「正面」として正面図に描き、その肘掛椅子に座る人の左手側に当たる左肘（肘掛椅子の通常の正面に向かって右側）を右側面図に描く。ところが上記三社の家具図には、この左肘（肘掛椅子の通常の正面に向かって右側）を正面図として描いたものが数点ずつある（表1～5、★印参照）。この場合の平面図には、左肘を正面に据えたまま視点を上面に移して見た図を描く。そして左側面図には、肘掛椅子の通常の正面に当たる面を描く。この描き方は、主として安楽椅子・肘掛椅子の場合に限られている。安楽椅子・肘掛椅子は奥行が深い。その奥行方向を紙面の縦方向に据えてしまうと、紙面の空白部分が広くなり、紙面が無駄になると考えた結果であると思われる。またこの場合、通則通り三面図の右側面図を描くと、肘掛椅子の背面を描くことになるので、肘掛椅子の通常の正面が見える左側面図を描いたものと思われる。

また、これらの家具図の寸法数値単位は尺寸に統一されているが、昭和戦前期末、少なくとも教育現場では、家具図の寸法数値単位としてセンチメートルがすでに使用されていた⁶⁾。しかし、従前から各百貨店の家具装飾部に所属していた社員は尺寸に慣れ親しみ、併設工場（三越製作所・高島屋工作所など）・下請け工場・下職の家具職人は尺寸で製作していたために、これらの百貨店家具装飾部の家具図では寸法数値単位として尺寸が依然として使用されていたものと思われる。また、記入されている寸法数値は、家具の外形最大寸法だけのものが多い。椅子の場合では、巾・奥行・高さの他に座高・肘高も記入されている。また、いずれの家具図においても寸法線補助線の長さは長くない。つまり寸法補助線は家具近傍から引き出されてはいない。

3.3 三社の家具図の相違点

上記三社の家具図には、多くの共通点があるが、百貨店ごとに異なる点も若干見られる。

- (1) 寸法線 ①寸法線を中央で切らずに寸法数値を寸法線に重ねて記載するもの、②寸法線を中央で切り、その空白箇所に寸法数値を記載するもの、の二種類に分かれる。また端末記号は、矢印・黒丸・斜線に分かれる。なお端末記号を使用していないものもあった。
- (2) 透視図 透視図は高島屋の家具図にしか見られない。木檜一『近代の事務家具』（博文館、1930年）では、ほとんどの家具図において三面図の空白部分（平面図の右横）に透視図が描かれている⁷⁾。つまり、三面図と透視図の組み合わせで一葉（一枚）を構成する家具図というものが定型化していた。しかし、この三面図と透視図の組み合わせで一葉（一枚）を構成する家具図は、高島屋にしか見られない。

4. 百貨店家具図公開の背景

1942年11月開催の高島屋「第10回新作洋家具展覧会」を収録した『近代家具装飾資料』第47集の巻頭解説文には、「……何れもが簡素にして堅実な作風を示し然も夫々其の用途に適う構作的創造豊かな作品のみである。……本集はその総てを収録し、併せて製作図を添付して実際工作に資した。本集発刊のために寄せられた同店家具部諸氏の御好意に対し深甚の謝意を表する……」と記されている⁸⁾。

また、1940年頃開催の白木屋「和洋家具陳列展」を収録した『近代家具装飾資料』第38集の巻頭解説文には、「……作品の何れもが時局精神に基き、簡素質実を趣意として設計されたもので、日本的な意匠を加味し優雅な美しさを求めたものが多い。今回は家具部の理解ある好意により作品の実施図面を特に掲載し得た……」と記されている⁹⁾。

模倣される恐れがあるために、百貨店家具装飾部の新作家具展示会の出品作品の家具図は、平時であれば原則非公開である。しかし、1940年から1942年までの三越・高島屋・白木屋の三社の新作家具展示会は戦時下で開催されたものであったので、国策に従って家具製作図が誌上公開されたものと思われる。

これらの新作家具展示会が開催される前の世界情勢においては、1937年7月の盧溝橋事件を発端として日中戦争（支那事変）が勃発する。1939年9月には、ドイツ軍のポーランドへの侵攻に端を発して、第二

次世界大戦が突発する。翌1940年9月には、日独伊三国同盟が締結される。そして、1941年12月、旧日本軍の真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まる。

国内では、1938年4月に「国家総動員法」が公布されて、同法に基づく「各種材料使用禁止または制限令」(資材制限令)が順次発令されて戦時態勢に移行する。1939年秋に「価格等統制令」(9・18停止令)が発令され、翌1940年夏にはさらに厳しい「奢侈品等製造販売制限規則」(7・7禁令)が施行される。そして、1941年には「家具類の公定価格に関する商工省告示」が家具種類毎に順次示されている。

国内の軍需工場では、生産効率を上げることを目的として、「能率的な作業環境を得るために、工場用作業家具を合理化する」ことが追求された¹⁰⁾。また家庭では、銃後の生活を効率化することを目的として、家庭用家具の合理化が求められた¹¹⁾。

本稿で取り上げた高島屋の2つの新作家具展示会(1941年3月・1942年11月)の間に当たる、1941年10・11月には、戦時下の簡素質実な生活を送るための生活用品(家具・食器・国民服など)の指針を示すために、商工省主催の「第1回国民生活用品展覧会」が高島屋の東京店・大阪店で開催されている。また、本稿で取り上げた三越の2つの新作家具展示会(1941年初夏・1942年11月)の後に当たる、1943年3月には、商工省主催の「第2回国民生活用品展覧会」が三越本店で開催されている。

このように政府主導で、簡素で合理的な「実用家具」(utility furniture)の設計製作が奨励されていた時局柄、実用家具の設計製作技術の情報共有の名目の下で公開されたのが、これらの百貨店の家具図であった。

5. おわりに

本稿では以下の結論が導き出される。

- (1) 昭和戦前期の木材工芸界(家具産業界)を牽引した各百貨店の家具装飾部が、昭和戦前期末に洪洋社編集発行の『近代家具装飾資料』誌上で公開した家具図には、次のような標準化された共通点が見られた。
 - ① 正投影図法の第三角法による三面図(正面図・側面図・平面図)の全部、または二面(正面図・平面図、または、正面図・側面図)で描かれている。
 - ② 寸法数値単位が尺寸である。
 - ③ 着彩はないが、線画による木理(空目)、椅子張り裂地模様、ガラス記号、塗装色、ボタンなどの意匠表記がある。
 - ④ (a) 構造図(断面図・積層合板・甲板反止め材・座内臓コイルスプリングなど)、(b) 機能図(座回転図・甲板開閉図・ゲート式脚開閉図・鏡回転図など)、(c) 部品図(火鉢・特殊蝶番・タオル掛け・ガラス棚板・ガラス引違い扉・ガラス板嵌込図・鏡など)という構造機能表記がある。
- (2) 本来公開されることのないはずの各百貨店家具装飾部主催の新作家具展示会出品作品の家具図が、昭和戦前期末に『近代家具装飾資料』誌上で公開された背景には、国家総動員法が施行された戦時下において、簡素質実な生活を送るための生活用品である「実用家具」の設計製作技術の情報を共有しなければならない社会情勢があった。

注

- 1) 本稿では、1926(昭和元)年から太平洋戦争が終結した1945(昭和20)年までの約20年間を指す用語として「昭和戦前期」という語句を用いる。そして、「昭和戦前期」の中で1940(昭和15)年以降を指す用語として「昭和戦前期末」という語句を用いる。また、1937(昭和12)年夏の日中戦争(支那事変)勃発と翌1938(昭和13)年春の国家総動員法公布以降、戦争が日常化した状況を指す用語として「戦時下」という語句を用いる。
- 2) 本稿は、拙著『近代家具装飾資料』収録の昭和戦前期百貨店家具図の特質と背景——昭和戦前期末の

- 三越・高島屋・白木屋の家具図の比較研究”, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』, 2017, pp.217-218 の研究口頭発表に追加調査の内容を盛り込み, 再構成したものである。
- 3) 昭和戦前期の家具図に関する既往研究には, 拙著“木檜恕一による家具図の特質と変遷”, 『デザイン学研究第 60 回研究発表大会概要集』, 2013, pp.94-95 / 拙著“築島棟吉による家具図の特質とその背景”, 『デザイン学研究第 61 回研究発表大会概要集』, 2014, pp.136-137 / 拙著“木村貞の家具図の特質と変遷”, 『デザイン学研究第 62 回研究発表大会概要集』, 2015, pp.358-359 / 拙著“昭和戦前期の『家具公定価格集』に基づく『洋家具類銘柄参考圖集』の特質”, 『芝浦工業大学研究報告理工系編』, 59 巻, 2 号, 2016, pp.49-58 / 川上悠介他, “後久洋家具店所蔵の家具図面について”, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』, F-2, 2011, pp.315-316 / 中村圭介, 『文明開化と明治の住まい——暮らしとインテリアの近代史(上)』, 理工学社, 2000 / 中林幸夫, “日本の洋家具百貨店育ち”, 『日本経済新聞』, 朝刊, 日本経済新聞社, 2013.12.24, p.36 などがあるが, 本稿で対象としている各百貨店家具装飾部の家具図を比較検討した先行研究は見られない。
 - 4) ただし, 第 45・46 集は合併集なので, 全部で 5 回分ある。
 - 5) 図 2-1, 図 2-2, 図 2-3, 表 2-1, 表 2-2, 表 2-3 では, 三面図の他に背面図があるものも「三面図 26 点」に含めた。
 - 6) 木檜恕一, 『近代の事務家具』, 博文館, 1930, 第 1 図版～第 116 図版では, 寸法数値単位はセンチメートルで記されている。
 - 7) 同上 6) 木檜恕一, 『近代の事務家具』, 博文館, 1930, 第 1 図版～第 116 図版における三面図では, 正面図を上段左側, 右側面図を上段右側に配置して, 平面図を下段左側(正面図の下部)に配置して, 透視図を平面図の右側, すなわち下段右側に配置しているものが多数ある。三面図の配置の通則に従えば, 正面図を下段左側, 右側面図を下段右側に配置して, 平面図を上段左側(正面図の上部)に配置すべきであるが, 『近代の事務家具』では通則通りになっていない。
 - 8) 高梨勝重, “巻頭解説文”, 『近代家具装飾資料』, 47 集, 洪洋社, 1944 (新漢字・現代仮名遣い改め: 下線筆者)
 - 9) 高梨勝重, “巻頭解説文”, 『近代家具装飾資料』, 38 集, 洪洋社, 1941 (新漢字・現代仮名遣い改め: 下線筆者)
 - 10) 商工省工芸指導所編, “図録: 北辰電機の作業用家具”, 『工藝指導』, 12 巻, 8 号, 工業調査協会, 1943, pp.1-3
 - 11) 木檜恕一: “はしがき”, 『家具の科学』, 羽田書店, 1942, pp.1-3

